

評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570809723号
法人名	株式会社 えがお
事業所名	えがお大曲
所在地	大仙市大曲船場町1丁目1-21 (電話) 0187-66-3021

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年10月22日

【情報提供票より】 (平成20年10月6日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 16 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤 7 人 非常勤 2 人 常勤換算 8.1 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,400 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有()円	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	3 名
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合総合病院
---------	----------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「地域と共に」の理念に基づき単年度目標を掲げ、さらに職員一人ひとりが毎月の目標を立て、それを評価しながら次月の目標に反映させているほか、研修計画に基づいて月2回は法人内研修を行うなど、着実に職員のレベルアップにつなげている。
 利用者の写真付きで「えがお大曲たより」を家族に送付しているほか、地域にも配布する広報「えがお大曲」、法人としての「月刊えがお」など、充実した情報提供に努めている。
 また、職員は利用者一人ひとりの言動を見守り、できること、やりたいことを把握しており、利用者の目線での丁寧な声かけなどにより利用者の意欲を上手に引き出し、利用者も笑顔で落ち着いて生活している。
 さらには、総合施設長が看護師のため24時間の対応が可能で、協力医による居宅療養管理指導など医療との連携が充実している。
 管理者及び職員の向上意欲は高く、現状に満足することなく利用者が地域で暮らし続けるための支援のあり方を日々模索している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	センター方式を活用して介護計画の記載方法を工夫し、毎食後の口腔ケアも日課とするなど、評価後に具体的な改善策を検討実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	新人職員への自己評価の研修とともに全職員で自己評価を実施したうえで全体の自己評価をまとめている。 今後は評価後の改善課題を明確にし、全職員でサービスの向上に取り組むことを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では運営状況などを報告し、その内容を職員間でも共有している。 今後は、外部評価結果を報告して活発に意見交換するとともに、職員間のカンファレンス等でもサービスの向上につなげてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関への意見箱の設置や苦情受付体制を明らかにしているほか、丁寧な情報提供などにより家族と事業所・職員との信頼関係づくりに努めている。 今後は、家族会を組織したり独自でアンケートを実施するなど、家族が要望等を出しやすい環境づくりに期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新興住宅地のため町内会がなく、地域との関りがもちにくい環境にあるが、近隣者健施設の行事を通して交流と連携を図っている。 今後は、運営推進会議を通して地域との関りが持てるよう働きかけ、町内会や地域活動、緊急災害等の連携・協力体制の実現に向けて取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	組織全体の理念があり、掲げているが、事業所独自の理念は掲げていない。基本理念のもとに事業所の年間目標を立てている。	○	事業所独自の理念を作り、職員が一体となり取り組みたい。	「えがお大曲」の基本理念「地域と共に」を玄関やホールに掲示し、理念に基づき20年度の目標を職員とともにつくり上げている。 また、年度目標を基に月初めに月目標を立て、月末に評価して次月の目標に反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有が十分出来ているとは言えない。理念を基にした目標を設定しているが、毎月の目標もあり、実践できていない項目もある。地域との関わりは、ご近所の方へ挨拶をする、他施設の行事へ出席する等行っている。	○	全職員が基本理念を理解し、年間・毎月の目標を具体的に実践できるように取り組みたい。	運営者及び管理者、職員は月の目標に対して独自にアンケートを実施し、カンファレンスや連絡ノートにより理念を共有している。 また、職員は近所へのあいさつを大切にし、利用者一人ひとりに声かけしながら理念の実現に向け日々取り組んでいる。	○	サービスの質を高めるため、すべての職員が理念を理解し、共有したうえで実践につなげるよう継続した取り組みを期待したい。
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族へ、毎月1回「えがおだより」をお送りしている。地域の方へ、年2回広報紙を配布したり、地域公開講座を開催している。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外でご近所の方と挨拶は交わしているが、当ホームが新興住宅地に立地していることもあり、日常的な付き合いは出来ていない。	○	災害時や緊急時等には、ご近所の方の支援が必要となる。ご近所付き合いが出来るように、理解と協力が得られる方策を考えたい。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議へ地域住民の方へ出席して頂いているが、元々地域交流が薄い地域のため、行事への参加等、交流する機会が少ない。他施設の行事に出席する程度。	○	町内会等、地域活動を行っているのか情報収集をし、地域交流が出来るのか検討したい。	新興住宅地のため町内会がなく、あいさつだけは徹底しているが地域との交流が図りにくい環境にあるが、近隣老健施設の夏祭りなどの行事を通して交流と連携を図っている。	○	運営推進会議を通して地域活動などで関わりを持てるよう働きかけ、積極的に交流を図れるよう工夫してほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当ホームとしては行っていない。組織として、地域高齢者を対象に「健康教室」を開催したり、地域公開講座を開催し、認知症についての講演を行っている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、具体的な改善策を検討し実施している。以前から勤務している職員は理解しているが、新採用の職員は、外部評価についての研修を行っているものの、十分理解しているとは言えない。	○	全職員が外部評価の意義を理解した上で、評価後の取り組みを実施していきたい。	新人職員に自己評価に関する勉強会を行ったうえ、全職員で自己評価を実施している。 また、毎月の目標に対する評価にも結びつけ、そこから改善につなげている。	○	運営者及び管理者のほか、全職員で自己評価及び外部評価後の改善課題を明確にし、全職員でサービスの向上に取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動報告等をしている。参加者からの具体的な意見が出にくく、事業所側からの報告と談話が中心となっている。管理者が全職員に会議の内容を報告しきれておらず、質の向上に向けた対応まで至っていない。	○	全職員が運営推進会議について理解出来るように、説明や開催後の報告を行っていききたい。	運営推進会議は2か月に1回開催し、事業所の運営状況や活動等報告し、職員にも内容を伝えていく。 また、参加者は会議後に利用者に関わり、実態把握にも努めている。	○	外部評価結果を報告し、結果に対して活発に意見交換するとともに、職員はカンファレンス等でサービスの質の向上につなげるなど、会議を有効に活用してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事務所と地域包括支援センターが開催する「キャラバンメイト養成講座」に参加し、認知症に対する正しい知識の普及・啓発を行う一員として関わる予定。			管理者は利用者の状況変化等に応じて法人内の責任者である総合施設長に連絡相談し、総合施設長が地域包括支援センターと連携している。 また、法人内の事業所とも連携・相談しながらサービスの向上に努めている。	○	地域包括支援センターだけでなく、事業所単独として行政担当者とも日ごろから関わりをもてるよう積極的な働きかけを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	組織内で外部の先生より講義をして頂き、全職員が学ぶ機会を設けている。未だ、具体的な活用までには至っていない。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織内で外部の先生より講義をして頂き、全職員が学ぶ機会を設けている。職員は、虐待につながるよう意識した対応を行っている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書にて説明させて頂いている。疑問点も伺い説明させて頂いているが、十分な理解を得られていない事もある。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情処理窓口を明示し、契約時または重要事項説明書の中でも説明している。本人・ご家族からの意見に対しては迅速な対応を心がけ、話し合いを行っている。	○	生活や対話の中から利用者さんの意見を汲み取り、運営推進会議等の席で反映させていきたい。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「えがおだより」や個人用の写真を送付し、生活の様子をお伝えしている。ご家族の面会の際には、近況報告し、お小遣い帳の確認をして頂いている。急変・受診があった際は、速やかに連絡・報告している。	○	遠方のご家族や面会に來れないご家族に対して、定期的に連絡・報告していきたい。		毎月「えがお大曲だより」に利用者の生活の様子を写真付で掲載し家族に送付しているほか、広報「えがお大曲」や法人としても「月刊えがお」を発行して情報提供に努めている。 また、小遣い帳も定期的に報告しており、健康状況の変化等があれば速やかに連絡のうえ状況を伝えている。	
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情処理窓口を明示し、契約時または重要事項説明書の中でも説明している。ご家族が意見や要望を言いやすい環境が出来ていない。	○	面会時等、ご家族の意見を伺うと共に、こちらから働きかける等、意見を出しやすい環境を作りたい。	○	玄関に意見箱を設置し、苦情受付体制を明らかにして意見等を出しやすいよう配慮しているほか、家族とは面会時などに話し合い、信頼関係づくりに努めている。 また、出された意見や要望については、カンファレンス等で検討して改善につなげている。	家族は職員に対して苦情を言えるまでには時間がかかるため、例えば家族会を組織して家族の要望等を把握するなど、要望・苦情等を出しやすい関係、環境づくりに期待したい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの場は設けているが、反映させる事が出来ない。運営者側に伝わりにくい。	○	管理者は、職員の意見を汲み取り、運営者側へ働きかけていきたい。			
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	限られた人数であるが、受診日やカンファレンス日には職員数を増やす等、勤務の調整を行っている。	○	利用者さんの生活が充実するような勤務の調整を行いたい。			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人材の確保が困難で、離職率も高い状態。その為、職員の移動もあり、入居者さんへ影響が出た。7月以降離職が定着し、利用者さんも落ち着いてきている。	○	現職員の定着を図ると共に、利用者さんが生活しやすい環境作りと、職員の質の向上を目指したい。	○	職員の異動により利用者が不安定な状態もみられたが、現在は信頼関係ができつつあり落ち着いている。 新人職員には新人研修の中に事業所見学等を取り入れ、利用者覚えてもらうよう工夫している。	職員の離職率が高いためその要因を把握し、職員が安心して働ける環境と利用者が安心して生活できる環境整備に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員用、臨時採用、パート採用各採用研修プログラムがあり必要に応じて行っている。定期的に社内研修の開催、年数回外部講師による研修の場を設けている。	○	研修は任意参加の為、受講が必要な職員の参加が得られない事がある。職員の目標設定を行い、目標達成に必要な研修に参加するように働きかけたい。	法人内の研修計画に基づき、すべての職員が各種研修に参加できるよう促進しており、事業所の勤務体制は新人職員と現職員の組合せで対応している。	○	研修内容により任意参加があるため、職員の経験や職種、一人ひとりの達成目標などに応じて計画的に参加できるよう配慮しながら育成に努めてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員はグループホーム連絡会に加入しており、講演等交流の機会はあるものの参加の頻度は少ない。運営者側が中心となっているようだ。	○	限られた機会を利用して、同業者との交流を図りたい。	月2回、法人内の研修や定期的なレクリエーション（ボーリングなど）を実施して交流を図っている。 また、大曲仙北GH連絡協議会に加入しており、研修などを通じて同業者との情報交換も行っている。	○	同業者との交流は研修が中心であるため、日常的に情報交換できるようネットワークづくりに努め、事業所全体のレベルアップにつなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回ボーリング大会や忘年会を行っているが、日常のストレスを軽減できているかは疑問。メンタルケアの先生によるストレス緩和の講習会を行った。	○	現場職員側から、ストレス緩和の方策や環境作りを提案していきたい。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアの質の向上を職員に伝えようと努力している。職員の研修参加や資格取得、勤務状況等を把握している。また、積極的に外部研修へ参加させ、職員の質の向上に努めている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談時、ご本人・ご家族に事業所を見学して頂き、要望等を伺っている。ご本人の遠慮や緊張感から、ご希望が話されない事が多く、入居前にご本人を受け止めきれない事が多い。また、緊急で入居される時には十分な検討が出来ず、準備不十分で後から問題発生の時もある。	○	利用前の面接・話し合いを十分に行情報収集をし、利用が適当かを判断したい。入居に至る場合には、何回か面会の機会を作り、ご本人が落ち着いた状況でご希望を伺いたい。			
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談時ご家族の思いを伺い、ご家族・ご本人がどうありたいかを受け止めるよう勤めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や見学の際、お話を伺い必要な支援を見極めるよう努めているが、ご家族とご本人のご希望にズレが生じる事がある。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ご本人から情報を得ながら、これまでの生活を考慮した支援を心がけている。しかし、入居後、ご本人・ご家族から情報が得られない事もあり、事業所側で推測した支援となることがある。	○	ご本人の情報を入居以前より把握し、ある程度の支援方法を検討しておく必要がある。ご家族から、情報提供等の支援が得られるよう働きかけていく。	管理者及び職員は利用者本人との面談や家族からの情報を得て生活に反映させており、花の好きな方は花の水やりなど、それぞれに笑顔で落ち着いた生活を支援している。	○	利用者の精神的な影響を最小限に抑えるため、事前に泊まりを含めた1日入所体験するなど、スムーズな利用につなげられるよう工夫してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援							
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんとの日常会話ややり取りの中で共感し、知識や人間的に教わる事が多くある。しかし、利用者さんに“お客さん”という意識もある事、職員の手腕未熟もあり一方的な支援になることもある。	○	利用者さんに活躍の場を作ったり、職員・利用者さんで行う場を作る等、一人一人の利用者さんに目を向けた支援が出来るように職員の質の向上を図りたい。	利用者さんと職員がチラシでの箱づくりや料理の盛り付けなどを共に行い、一方的な支援にならないよう意識している。 また、ホールでは懐メロや童謡が流れ、利用者さんと職員と一緒に歌い、会話が楽しく笑い声のある生活を支援している。	
	28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等、機会がある毎に情報交換をしている。ご本人の今を理解し受け止められ、職員と共にご本人を支えたり協力して下さる方もおられるが、事業所側へ任せているという感もあり、共に支えるまで至らない事もある。	○	ご家族との情報交換を密にし、事業所・ご家族双方が理解し合い、協力者として支援して頂けるよう働きかけていきたい。		
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と別居していたり、遠方に住んでいる方が多く、ご本人との関係が深くない方もおられる。利用者さんが表情良く生活されていると、ご家族にも変化がみられ、面会の回数が増えたり、職員との情報交換も密になっている。	○	ご家族との関係が複雑な利用者さんに対しては、間に入り出来る限り良好な関係が築けるよう支援していきたい。		
	30	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行き付けの美容院の利用や、ご家族の協力を得て長年続けている句会への参加、遠方の友人との手紙のやり取り等の支援を行っている。友人の面会はあるものの、こちらからの訪問は行っていない。				
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲間意識というよりは、個々に活動される方が多い。その中で、孤立しないように座席を決めたり、職員が仲介しながら共に活動を行ったりしている。利用者さん同士が助け合う光景も見られる。				
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族には、退所後も相談や情報提供等の支援を行う旨をお伝えしているが、現状として退所後は疎遠になってしまっている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
1. 一人ひとりの把握							
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言動から、希望・意向を汲み取りサービスにつなげるよう努めているが、十分に把握は出来ていない。	○	職員が共通意識を持ち、利用者さんのニーズを把握し、一人一人の生活に目を向けた支援を目指したい。	職員は利用者一人ひとりの言葉や表情、行動を見守り、気の合う方同士で席に着くなど思いを把握しながら支援している。 また、昼食時に居室からホールへの移動が遅い方でも、職員のせかさないう声かけ誘導により笑顔で食事を摂っている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用にあたり、ご家族・ご本人から情報収集に努めている。また、過去のサービス利用担当者から情報提供して頂いている。				
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身の状態の変化に伴いサービスの検討を行い、必要とされる支援を見直しているが、利用者さん全員を把握しきれていない。	○	利用者さん全員に目を向け、一人一人の希望が反映されたサービスの提供に努めていきたい。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員・計画作成担当者と定期的カンファレンスを行い、利用者さんへのケア内容について検討している。ご家族の協力や説明・同意が必要な場合は、ご家族にも参加して頂いている。	○	職員・計画作成者間の連携、情報の共有を徹底し、職員からの具体的な意見・アイデアが反映された支援を目指したい。	「私の基本情報シート」等センター方式を使用し、計画作成担当者と職員は定期的または状態変化に応じてカンファレンスしている。また、家族の面会時には必要に応じて話し合い、家族の意向も確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれず、利用者さんの変化に応じた対応を検討している。その都度、ご家族へ報告している。	○	職員・計画作成者間の連携を図りたい。	介護計画の見直しは定期的または利用者の状況変化に応じて実施しており、その都度カンファレンスのうえ家族の意向も確認している。	○	計画作成担当者及び現場職員の関係を強化し、確実に情報を共有してサービスの向上に努めてほしい。
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケア、入居者さんの様子を記録に残し、必要に応じてカンファレンスを行っているが、職員個々の気づきの視点が異なり、気付けない所もある。	○	職員が同じ気づき意識を持つ事、記録の活用、気づきが介護計画に結びつくようにしていきたい。			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族から要望が出た際には、出来る限りお答えしている。			総合施設長が看護師であるため24時間の対応が可能で、居宅療養管理指導も行うなど医療との連携が充実している。また、利用者及び家族の要望に応じ、馴染みの美容院等を利用するなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	定期的に高校生のボランティアを受け入れたり、消防署立会いの下防災訓練を行っている。かかりつけ医・薬剤師・専門医の協力を得て、適時受診している。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャー等との話し合いの場は持っていないが、利用者さんの今後について等、ご家族・担当ケアマネジャーと話し合いの場を設けている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	緊急性のある方に対し、地域包括支援センターと協働し、当ホーム利用受け入れをした。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時、ご家族にかかりつけ医との連携について説明し同意を得ている。また、利用前からの医療機関を継続して受診希望される方に対しては、希望が叶うようにしている。			利用契約時に利用者及び家族の通院先などの希望を確認のうえ支援している。また、かかりつけ医や提携医療機関との連携もできており、かかりつけ医は月1回往診している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との連携で専門医を紹介して頂いている。必要な利用者さんは定期的に専門医を受診し、ご本人の変化に変化に合わせて状態報告をし、診断や指導を受けている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専任の看護師がおり、日常的・急変時に状態報告をし適時指導を受け、日々の健康管理につながっている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院になった場合、当ホームでの経過や生活の様子を詳しく説明している。また、病院看護師・担当医から入院計画を説明して頂いている。かかりつけ医と連携し、急変・入院の必要がある場合は、他の医療機関を紹介して頂いている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで終末期となった方はいないが、急変された利用者さんに関しては、ご家族との話し合いの場を設けご理解を求めた。	○	利用年数の長い方や高齢の方が増えており、話し合いの場を設けていきたい。かかりつけ医との話し合いの場も設けたい。	終末期対応の指針はあるが、管理者及び職員間での共通認識が図られていない。 なお、家族としては利用者の状態変化の際は提携医療機関だけでなく、その他の医療機関からも協力を得られるよう柔軟な連携体制の充実に希望している。	○	管理者及び職員への周知徹底を図るとともに、家族にも十分に説明し、指針に沿った対応を可能にしてほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで終末期となった方はいないが、急変した場合に備えた医療機関との連携マニュアルはある。	○	利用者さんが高齢になってきている事もあり、事業所内でも終末期の対応について話し合う必要がある。			
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設や医療機関へ移られる際、サマリー等で情報提供をしている。ご家族に生活の様子を説明している。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者さんに合わせた言葉かけやタイミング、声の大きさ等を心がけているが、十分とは言えない。	○	プライバシーへの配慮や向き合い方を再確認し、職員の意識を統一していきたい。	職員は利用者一人ひとりに対して視線を合わせ、声のトーンに配慮しながら丁寧に手伝いをお願いし、必ず「ありがとう」と礼を述べている。 利用者一人ひとりの記録等については、ホールの隅に置いて職員が見守りながら記録している。	○	個人情報が他の利用者や来客者の目にふれる場合も考えられるため、プライバシー保護のためにも書庫棚等への確実な管理改善が求められる。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望を表せる方は限られている。出来る限り、利用者さんに合わせた選択・決定等を働きかけている。	○	職員でばらつきがある為、意識を統一したい。			
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れからみると、利用者さんのペースが保てている。しかし、食事・入浴・等は職員側の都合になっている。			職員は利用者の状態に応じて毎朝の花の水やり、お手拭きたたみ、タオル干しなど一人ひとりに合わせて支援している。 また、食事や入浴なども利用者のペースで行っている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援									
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来る限り支援しているが（爪切り・服装等）、関心のない方もいる。利用者さんの希望や状態に合わせて美容院を選んでいる。						
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けは行っているが、献立を考えたり、調理は職員が行ってしまう。台所に立って下さる方が少ない事もある。	○	利用者さんの意見を聞きながら、食事作りへの参加への働きかけを行いたい。昔ながらの食材・季節の食材を献立にとり入れ、食べる楽しみを味わって頂きたい。	○	利用者が使い慣れた馴染みの茶碗や食器を持ち込み使用しており、盛り付けや後片付けなどは利用者のペースに合わせて職員と一緒にしている。また、季節の食材を使用し、利用者の状態に応じてお粥にしたり調理を工夫している。	○	利用者の状態によっては調理の手伝いなどできる方もいると思われ、できる方の意向等を確認しながら支援してほしい。
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物やおやつを伺い提供している。居室で自己管理されている方もいる。生物に関しては、本人に了解の上冷蔵庫で保管し、希望時お出ししている。						
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	利用者さんの排泄パターンを把握し、誘導や利用者さんの能力を考慮し、失敗につながらない支援をしている。	○	トイレが狭く、トイレ内での介助が不十分な時もある。また、他利用者さんに見られたり声かけのタイミングが悪い時もある。職員の排泄に対する意識を統一したい。				
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	就寝前や1日置き、時間帯等、希望に添っている方もいる。体調に合わせてシャワーや清拭に切り替えている。職員の勤務時間の関係や衛生上の都合で利用者さんの希望に添えない場合もある。				入浴の時間は就寝前や午後、一日おきなど利用者の希望を優先して支援している。また、入浴を拒む場合にはさり気ない促しにより納得のうえ入浴してもらっているほか、体調に合わせてシャワー浴や清拭を行い清潔の保持に努めている。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者さんに応じて温牛乳の提供や就寝前の付添い等をしている。眠剤を服用されても眠れない等、安眠支援が難しい方もいる。						
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援									
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食後の片付け等の家事作業を利用者さんの力に応じて行って頂いている。一部の方へ生活歴から趣味の支援を行っているが、利用者さん全ての支援には至っていない。気分転換として、少人数で気の合う入居者さん同士を外出にお誘いしている。	○	利用者さんの生活歴を全職員理解し、楽しみや趣味等を引き出せるような取り組みを考えたい。		共有スペースの掃除やペーパーたたみ、花の水やりなど利用者の状況に応じて役割を持ち、その日の状態をみながら支援している。また、職員はその都度感謝の言葉を伝え、利用者の意欲を高めている。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはお小遣い帳でホームで管理しているが、お金はご家族が管理していると思われ、買い物に誘っても遠慮してしまう方が多い。ご自分で財布を持ち管理されている方は1名。要望により買い物代行やお金を渡しご本人に買い物して頂いている。						
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物等、希望がある時は行っている。殆どが、職員側からの働きかけによるものだが、散歩やドライブ等行っている。外出を拒否されるかたも数名いる。	○	利用者さんの希望を伺いながら、日光浴や散歩、外出等の機会を増やしていきたい。		散歩や馴染みのスーパーへの買い物、花の好きな気の合う方同士での外出など、それぞれの楽しみを大切にしよう支援している。また、季節に応じて花見や紅葉、大曲の花火などに出かけており、外出したくない場合は強制せずに職員が残って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人的に外出を希望する方はご家族の協力が得られている。外出の計画は職員からの提案が中心となり、利用者さんにお誘いする状態。一人一人へ何う機会を設けていない。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人やご家族とハガキや手紙のやり取りの支援をしている（ハガキ・切手購入、投函等）。届け物へのお礼の電話は、ご本人にも出て頂いている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる方に対しては、ご家族からの制限がなければお会いして頂いている。ご本人の居室へお通しし、くつろいで頂けるよう心がけているが、お茶の出し方等職員でバラつきがある。	○	面会に来られた方・ご本人が楽しい一時を過ごせるよう、職員も配慮し、環境を整えるようにしたい。			
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が社内研修で「身体拘束・虐待の禁止」について学び、理解した上で支援を行っている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	利用者さんが自由に出入りできるように、玄関の鍵は夜間の戸締り以外は開けている。全居室に鍵は付いておらず、職員は施錠をする事が拘束につながる事を理解している。			居室には鍵がなく、日中は玄関のドアに鍵をかけずに誰でも自由に外出できるよう配慮しており、外出時には風鈴のような心地よい音がするよう工夫している。 また、無断外出する方もいるため、警察と連携して見守りを強化しているほか、職員が付き添って利用者の安全を確保している。	○	地域住民からの見守りや声かけ、連絡をもらえるよう運営推進会議等を通じて理解と協力を求めるなど、具体的な関係づくりに向けて働きかけてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者さんの生活パターンを把握しながら見守りをしているが、日常的な慣れから配慮に欠ける時がある。	○	利用者さんのプライバシーや職員のあり方について再認識する必要がある。			
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切りや鋏等、ご自分で使用できる方は居室で管理されている。職員が業務上使用する物品に関しては、利用者さんの目に触れないようにする等、安全管理に努めている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種対応マニュアルはあるが、確実に実行できるとはいえない。特に多い転倒は、防止策等話し合っているが、未然に防げない事が多い。	○	各状況に対する基本対応の訓練を実施したい。転倒等、職員の注意では防げない方への新たな対応を考えていきたい。			
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	年1回全職員が救命救急講習を受けている。急変マニュアルはあるものの、応急処置や初期対応が出来ないことがある。その都度看護師に連絡し、支持を仰いでいる状態。	○	基本的な処置や対応の仕方を全職員が理解し、実践訓練をしていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間防災訓練計画をたて、定期的に訓練を実施しているが、改善すべき課題が残っている。地域住民との交流が薄いため、協力要請は行っていない。	○	改善内容を見直し、全職員が対応できるよう、マニュアルの再確認・館内点検・訓練を行っている。地域住民へも働きかけていく。	防災計画があり、消防署立会いのもと定期的に避難訓練を実施しており、近くの老健施設を避難場所とするなど緊急災害時の対応を確認している。 また、救命講習等も受講し、有事には職員が適切に対応できるよう訓練している。	○	地域住民の避難訓練参加や緊急災害時における協力体制など、地域の一員として取り組める関係づくりに向け、運営推進会議等を通じて働きかけてほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者さんの状態変化に応じて対応策を見直し、その都度ご家族へ説明し、ご理解頂けるよう努めている。状況により、ご家族にも話し合いに参加して頂いている。ご本人にとって良いと思われる方策を話し合っている。	○	ご自分のペースで安定した生活をされている方のご家族にも、近況報告等の連絡を定期的に行いたい。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや表情、日常生活の動き、入浴時の皮膚状態の確認、本人の発言等から変化を察知し、責任番が把握するようにしているが、全職員が情報を共有するまで時間がかかることがある。対応が統一されていない時がある。	○	報・連・相と情報の共有化の徹底と職員の意識と対応の統一を目指したい。定期的にマニュアルを確認する。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容はカルテに閉じ、職員が見やすいようにしている。飲み違い防止の為、処方薬は一包化されている。処方薬の多い方もおり、職員は内容を把握しきれておらず、服薬ミスにつながる事がある。	○	全職員が、利用者さんの薬について理解し、服薬ミスの防止に努めたい。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳や提供や小まめな水分提供をしているが、繊維質を取り入れた献立が少ない時がある。適度な運動が不足している。薬剤調整が中心となっている。	○	薬剤に頼りすぎず、日光浴や体操等を取り入れたり、便秘に効果的な食材選び等を心がけたい。職員は便秘についての理解を深める必要がある。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝晩の整容時は見守りや介助にて全員の方が行っている。朝・昼食後に関しては、チェック表を活用し食後の口腔ケアを促しているが全員ではない。	○	食後の口腔ケアが定着するように働きかけたい。介助の必要な方の支援として、正しい口腔ケアの仕方を学びたい。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養チェック表を活用し利用者さんの摂取状態を把握している。入居者さんに合わせて好みや食べられない物、おかゆ、刻み、減量等提供の仕方を変えている。食器や器具も、利用者さんの能力に応じ変えている。	○	共有スペースに食器棚やポットを置き、利用者が自由にお茶を飲むことができる。 また、利用者の状況に応じて水分摂取を支援しており、摂取状況を栄養チェック表に記録している。	○	利用者の栄養バランスが適正かどうかを把握するためにも、半年に1回は栄養士等専門家からチェックしてもらい、指導・助言を得ながら献立に反映させてほしい。	
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	うがい・手洗いの徹底。感染症予防委員会があり、時期により職員へ周知強化・徹底など行っている。食材管理や感染症対応マニュアルはあるが、十分理解できているとはいえない。	○	定期的にマニュアルを確認し、対応の仕方を練習する必要がある。必要な備品がどこに置かれているのか把握する。	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理を始め、台所の衛生マニュアルに沿って実施している。肉・魚の購入時は保冷袋に収納するなど、食材購入の際も気を付けている。			(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家を増改築した建物であるが、道路に面して職員の駐車場となっている事、玄関が奥まっていることもあり、近隣の方が出入りし易いとは言い難い。プランターに花を植えて玄関までの通路に置いている。ホームの周辺の草木の手入れが行き届かない時がある。	○	道路脇の空きスペースを花壇にしたり、草木の手入れを小まめに行い、環境整備に努めたい。			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型の建物である為、共用空間は家庭的な雰囲気が出ている。居間の空間を区切り、利用者さんが個々にくつろげる様に工夫している。トイレに関しては、一般家庭よりも狭く換気扇は無い為、臭気がこもり易い。	○	居間に季節感を取り入れたい。	共有空間にはソファやテーブルがあり、季節の花なども飾り家庭的な雰囲気づくりに努めており、利用者はそれぞれに好きな所でくつろいでいる。 また、建物は24時間換気システムを導入し、住宅街のため静かで快適な環境となっている。	○	トイレに換気扇がなく季節や時期によってはトイレの臭気がこもり易いため、換気扇の設置など改善が求められる。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配置換えを行い、居間に食堂・ソファでくつろぐ・1対1でくつろぐ空間を作っている。居室・居間以外での空間の確保が難しく、場面転換がしづらかったり、話し声が筒抜けとなり非難されたりする。	○	居室で過ごすより居間で過ごす事を好まれる方が多い。利用者さんが思い思いにくつろげる環境の工夫をしたい。			
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にもお願ひし、衣類や小物等ご本人の使い慣れたものを持参して頂いているが、家財道具に関しては搬入困難な物が多く十分ではない。居室に家財道具等を搬入し住み易くされている方もいるが、居室が殺風景な方もいる。	○	居室に花を飾る等の工夫をしたい。ご家族の協力を得て、生活感のある空間を考えていきたい。	家族と相談し電気ポットや茶碗などお茶道具を持ち込み、好きな時間に居室でお茶を飲んで過ごしている。 また、ベッドや畳の上にマットレスを敷くなど、それぞれに使いやすい自由な配置としている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	館内は24時間換気システムが作動している。起床時や掃除の際に窓開け換気を行っている。衣類調整や窓の開閉、冷暖房で温度調節をしている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改造型である為、トイレや廊下の幅が狭い、洗面所と浴室の使いにくさ等の不便さはある。その為、転倒等につながり易いが、不便さが利用者さんの自立につながっている部分もある。	○	利用者さんの能力を把握した上で、安全性を高める方策を考えていきたい。			
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ支援しているが、職員が介入しすぎて利用者さんの混乱を招く事がある。能力を見極めきれず、過剰に手を貸してしまう事もある。	○	利用者さんが必要とする支援のポイントを見極め、状況に応じた支援を目指したい。			
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外でのお茶会や散歩、プランターの花の手入れ等行っているが、頻度は少ない。花の手入れが日課となっている利用者さんはいる。	○	外での活動を好まれる方が少ない事もあるが、職員の働きかけも少ない。館内だけでなく外での活動を行い、生活に刺激が加わるようにしたい。			

※ は、重点項目。

項 目		自己評価	
		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)